

リトアニア月報

2024年8月

在リトアニア日本国大使館

※本月報は月末現在の公開情報等を大使館で取りまとめたものです。

8月の振り返り

- 8月は、例年になく月末まで高温の夏日が継続、人々はたつぷりの陽光の中で去りゆく夏を満喫しているという風情でした。
- 内政的には、ナウセーダ大統領とシモニーテ首相の間でスタックしていたリトアニアの欧州委員候補について、首相が元首相のクビリウス欧州議会議員(与党祖国同盟)をノミネートし、大統領もそれを承認したと伝えられました。9月の臨時議会で決議が行われます。大統領は、祖国同盟が候補としていたランズベルギス外相について、興味が外交第一であり必ずしも経済・社会課題第一ではない中でベストの候補とは言えないのではないか、とコメントしたと報道されました。ラ外相については、ロシアのウクライナ侵攻と同時期にギリシャの小島に別荘を家族名義で購入していた事実が、メディア、野党による追求もあり、ゴシップ的な話題ともなっていました。また、大統領が主張していたと伝えられる閣僚の交代については、現職のドゥルキース保健大臣とナヴィツカス農業大臣が退任し、それぞれ保健省の副大臣、元農業大臣(与党祖国同盟)が後任として就任宣誓を行いました。
- また、現在支持率トップの社会民主党の党首ブリンケビチュウテ欧州議会議員は、10月の総選挙で社会民主党が勝利すれば首相に就任する用意がある、と初めて意図を明確にしました。また、シモニーテ首相も、現与党の祖国同盟が勝利すれば首相としての再登板に合意する用意がある旨を表明しました。
- 外交安全保障面では、24日のウクライナ独立記念日には首相がキーウを訪問して式典に参加、力強いスピーチを行いました(内容のエッセンスは末尾をご参照)。また、ウクライナへの軍事支援、特にドローンの供給等が積極化され、カシュウナス国防大臣もキーウを訪問し、ゼレンスキー大統領に対し短射程防空システム等の武器支援の強化を伝えました。全体に、冬までにリトアニア製のドローン 5,000機が供給されることや、地雷除去システムへの追加支援を含め、今年のウクライナ支援は、GDPの0.25%(約170百万ユーロ)を年間目標とする支援額を上回る見込みである、と首相は述べ、他の同志国にも追随を促しました。
- また、中央プロジェクト管理庁(CPMA: Central Project Management Agency)によれば、破壊されたキーウ近郊のポロディアンカの幼稚園がめでたく再建されオープンしました。資金面ではリトアニアに加えて、米、台湾から支援が行われました。
- そして、国防省は、市民のドローン技術の向上を含むレジスタンスにおける社会的強靱性と準備のためのプログラムを実施するNGOに、20万ユーロの支援をすると公表、国防省は国防に関連するNGOの運営プログラムに、今年既に総額60万ユーロを割り当てていると報じられています。関連してビリニュス市は、ドローン等の操縦者のための最初の訓練地域を市内にオープン、ライフル同盟とリトアニア軍事アカデミーが訓練を提供するようです。
- 社会面では、記念日として、7日のジョージアの南オセチア紛争16周年、9日のベラルーシ大統領選挙4周年、23日の「バルトの鎖」35周年等において、大統領や議会議長、首相、外相等からメッセージが発せられました。24日のウクライナ独立記念日には、ビリニュスのウクライ

ナ・センターでナウセーダ大統領夫人等出席のもと記念式典が行われ、またウクライナ支援のために毎週行われている月曜集会の、第 110 回目となる特別集会が、この日に大聖堂前広場で開催されました。ウクライナ戦争も既に 2 年半、一層の連帯と支援を行うとのメッセージが繰り返されました。

- 経済面では、アラブ首長国連邦の経済大臣や運輸大臣が来訪し、アルモナイテ経済イノベーション大臣やスクオディス運輸通信大臣らと会合、貿易や投資関係を加速させ、インフラやイノベーションに関する共同プロジェクトを増加させること等に合意したと報じられました。

駐リトアニア日本国特命全権大使
尾崎 哲

－内政－

5日 ナウセーダ大統領がシモニーテ首相によって提出された2人の新大臣を含む閣僚構成案を承認。保健大臣にペチュカウスカス(Mr. Aurimas Pečkauskas)保健副大臣が、農業大臣にスタルケヴィチウス(Mr. Kazys Starkevičius)議会経済委員会委員長が任命された。他の12人の閣僚は留任する。内閣の再任は、憲法が新大統領の就任時に首相に辞任を義務づけているため。(BNS)

8日 7月実施の Sprinter Tyrimai の世論調査によると、首相の職に最適な人物の第一位にシモニーテ現首相が選ばれた。シモニーテ首相の支持率は15%であり、主要都市在住で高等教育を受けた投票者からの支持率が特に高かった。その後に反ユダヤ主義を掲げる前議会議員のジェマイタイティス氏(9.4%)、ビリンケビチュウテ社会民主党党首(7.9%)が続いた。(ELTA)

8日 Sprinter Tyrimai の世論調査では、ジェマイタイティス元議員が設立した新政党「ネムナスの夜明け」が筆頭与党の祖国同盟を抜き第2位の支持率(10.2%)を得た。第一位は社会民主党(12.9%)、第三位は祖国同盟(10.1%)だった。(ELTA)

19日 クビリウス(Mr. Andrius Kubilius)欧州議会議員がリトアニアの欧州委員に名乗りを上げた。ナウセーダ大統領は同氏の立候補を支持。ランズベルギス外相は、与党祖国同盟の最有力候補と目されていたが、ナウセーダ大統領の推薦を得られず断念。クビリウス氏は祖国同盟に所属し、1999年から2000年まで、及び2008年から2012年まで首相を

務めた。リトアニアの欧州委員候補は政府によって推薦され、議会及び大統領によって承認されなければならない。(BNS)

21日 リトアニア政府はウクライナからの戦争難民の一時滞在許可を1年延長する見込み。移民局によると、毎日30件から40件の新規申請があり、現在4,400人以上のウクライナ人が一時滞在許可書を所持している。(BNS)

28日 社会民主党党首で欧州議会議員のブリンケビチュウテ氏は、同党が10月の議会選挙で勝利した場合、首相に就任する用意があると表明した。ナウセーダ大統領は以前、ブリンケビチュウテ氏がリトアニアの首相となる可能性はあるものの、この役割を引き受けるよう圧力をかけるつもりはないと述べていた。ナウセーダ大統領は社会民主党が選挙で勝利した場合の首相候補の一人として、同党のパルツカス(Mr. Gintautas Palckas)議員の名を挙げた。(ELTA)

－外政－

7日 シモニーテ首相及びランズベルギス外相は、2008年に勃発した南オセチア紛争から16周年を迎えるに際して、「X」にて談話を発表。シモニーテ首相は、当時の免責と宥和政策がロシアの帝国主義的攻撃性をより野蛮なものにしたと述べた。ランズベルギス外相は、ロシアのジョージア侵攻の中に、野蛮な力が国際的な法と秩序を踏みこむという帝国主義の古くからの傾向を見て取った。(Xの投稿取りまとめ)

9日 ナウセーダ大統領を始めとするリトアニア

アの首脳は、不正得票の疑義が呈されている2020年のベラルーシ大統領選挙から4周年を迎えるに当たり、「X」にて談話を発表。ナウセーダ大統領及びチュミリーテ=ニールセン議長は、リトアニアが迫害を逃れ民主主義のために戦うベラルーシ人の拠点となっていると述べた。シモニーテ首相は「ルカシェンコはプーチンに服従することによって権力にしがみついており、ベラルーシの民主主義への唯一の道はウクライナの勝利を通してのみである」と指摘した。(Xの投稿取りまとめ)

24日 シモニーテ首相はウクライナを訪問し、ゼレンスキー大統領、シュミハリ首相及びステファンチュク最高会議議長と会談。シモニーテ首相は、短距離防空システムを含む最新のリトアニアの軍事支援パッケージが9月までにウクライナに届くと発表。「リトアニア政府は、

26日 リトアニア財務省傘下の中央プロジェクト管理庁(CPMA)は、米国のNGO団体と台湾と共同でウクライナのボロアディンカの幼稚園を再建した。開園式にはシュトウナス外務副大臣が出席し、「再建された幼稚園はウクライナが未来に向かって前進していることを証明する」と述べた。駐リトアニア台湾代表処の王代表は「台湾の人々にとって子どもは希望と未来の象徴である。この信念が、ウクライナの基本的な教育インフラの再建におけるリトアニアとの継続的な協力の原動力となっている」と述べた。(BNS)

31日 1993年8月31日に最後のロシア軍部隊がリトアニアから撤退してから31周年を迎えることを祝してリトアニアの首脳がXにて談話を発表した。ナウセーダ大統領は「リトア

ウクライナへの軍事・安全保障支援としてGDPの0.25%を提供するという公約を達成し、今年はおそらくそれを上回るだろう。リトアニアは欧米の同盟国や世界の民主主義国家に対し、ウクライナが戦場で敵を倒すために必要な武器を一刻も早く提供するよう常に求めている」と述べた。(リトアニア首相府発表)

24日 リトアニアを訪問中のシモニーテ首相は、ウクライナ独立記念日の公式行事に出席し祝辞を述べた。祝辞の中でシモニーテ首相は、ウクライナの人々が自分たちの国土と国家だけでなく、リトアニア、ヨーロッパ、そして民主主義世界全体の自由と価値観を英雄的に守ったことに感謝の言葉を述べ、不屈のウクライナ国民の信念と忍耐、及び勝利を祈念した。(リトアニア首相府発表)

ニア人は決して心中で自由の感情を失わなかった。我々は自由のために闘い、今日そのために立ち上がり続けている」述べた。チュミリーテ=ニールセン議長は「1993年8月31日、残りのロシア軍隊がリトアニアの土地を離れた。今日の31周年記念式典には、リトアニア製ドローンを送るプロジェクトの資金調達者も来た」と述べた。8月31日は「自由の日」と呼ばれる。(Xの投稿取りまとめ)

—軍事・安全保障—

2日 ビリニュス市は初となる無人機(UAV)の訓練場を開設。市民がドローンの操縦技術を学ぶことができる。ベンクスカス・ビリニュス市長は、ウクライナ戦争の推移を辿ると、無人機が軍事紛争で果たす役割を見ることができると述べた。(ELTA)

9日 ウクライナ国防省は、キーウ近くの戦場を模した環境でリトアニア企業の戦闘用ドローンの試験を繰り返し行った。カシュウナス国防大臣は「リトアニアはドローン製造及びドローン妨害機器の生産を促進している。ドローン技術と能力は現代の軍隊にとって欠かすことができないものの一つだ」と述べた。(ELTA)

14日 カシュウナス国防大臣は、ウクライナのクルスク地方への侵攻を受け、「ロシアはカリーニングラードから同地方へ部隊の一部を移転させることを確認した。ロシアは資源を他の地域から引き抜こうとしている」と述べた。(BNS)

19日 ルドニンカイ訓練地区で、リトアニアに駐留するドイツ旅団のための軍事基地建設の第一段階が開始された。170ヘクタールの新しい軍事基地は、8月初旬に国防省と結ばれた1億2,500万ユーロの契約に基づき、Eikos Statyba 社が設計・建設する。式典には、シモニーテ首相、カシュウナス国防大臣、ヴァイクシュノラス参謀総長が出席し、ドイツ旅団のリトアニア駐留は歴史的な決定であると述べた。(BNS)

26日 国防省が発表したところによると、国防資材庁はリトアニアの戦闘用無人機メーカー5社から800万ユーロ相当の無人機を購入する。新しい無人機(UAV)はリトアニア軍とウクライナ軍向けである。(ELTA)

27日 リトアニア国防省は、海軍に海上ドローンを導入し作戦能力を強化する新たな段階に入るため、今年100万ユーロ相当の無人海上ドローンを購入する予定であると発表した。

カシュウナス国防大臣は、「我々は海上ドローン能力の構築に着手している。これは非常に高い抑止効果を持つ実績のある能力である。我々は、あらゆる領域で防衛の準備を整えていく」と述べた。またカシュウナス国防大臣は、リトアニアの各軍種に一人称視点(FPV)ドローンを装備するとも述べた。(ELTA)

—経済—

6日 リトアニア所在のスタートアップは今半期に2億200万ユーロを納税した。昨年同時期と比べ10%以上増加した。リトアニアでは現在、約1万8,000人がスタートアップ部門に従事し、その数は昨年からはほぼ変化がないものの、平均課税前給与は前年比で16%増の4,400ユーロであった。(BNS)

9日 テスラの欧州子会社「テスラ・インターナショナル」がビリニユスに Tesla Lithuania を設立した。(BNS)

21日 ドイツで最大の銀行の一つであるコメルツ銀行が12月にリトアニアに駐在員事務所を開設する。リトアニア銀行のシムクス総裁は「コメルツ銀行の決定はリトアニアの金融部門が魅力的であることを表している。当行の活動はリトアニアの銀行部門の競争性に好ましい影響を与えるだろう」と述べた。(BNS)

22日 アラブ首長国連邦(UAE)のアル・マッリ経済大臣がリトアニアを訪れ、アルモナイテ経済イノベーション大臣及びスクオディス運輸通信大臣と面会。アルモナイテ大臣は、貿易と投資を促進させ、共同インフラ事業を発展させることで合意し、増加しつつある両国間のフライトについて議論した。スクオディス大臣は

UAE がクライペダ港の拡張と代替エネルギー事業に参画するよう促した。(BNS)

30日 スカイステ財務大臣は韓国を訪問し、キム・ボムソク企画財政部第1次官と会談。スカイステ財務大臣は「ロシアの北朝鮮との軍事協力は、独裁政権は互いに支え合うことを示している。したがって、民主主義国家間の協力は決定的に重要である」と述べ、リトアニアは特にレーザー製造などのハイテク分野において韓国との経済協力の拡大に関心を寄せていると伝えた。(ELTA)

—エネルギー—

5日 送電系統運用会社の Litgrid は、ポーランドと接続される電力ケーブル、ハーモニーリンクの陸上敷設に向けた空間計画及び環境影響評価を開始した。7月、リトアニアとポーランドはコスト高を背景に、ケーブルの洋上敷設の代替案として、陸上敷設における協力に関する合意書に署名していた。(ELTA)

<ウクライナ独立記念日式典でのシモニーテ首相スピーチのエッセンス>

* 首相府のプレスリリースで引用されている部分

・「勝利の日は必ずやってくると信じている。ウクライナのクリミアで、そして自由で誇り高きマリウポリで、私たちは共に勝利を祝うだろう。リトアニアに避難しているウクライナ人が戻り、EU と NATO の都市でもあるドネツクとルハンスクを再建する。すべてのウクライナ人の子供たちが、スームィ州、ハリコフ州、ヘルソン州、そしてウクライナ全土の故郷に戻る。彼らの愛する人たちが、前線や捕虜生活から帰還したウクライナの勇敢な防衛者たちに抱かれるように」

・「ウクライナの勝利と国際法廷のみが、ウクライナと我々の共通の故郷であるヨーロッパに公正で持続可能な平和をもたらすだろう。リトアニアは、この目標への道のりの一步一步においてウクライナとともにあるし、今後もそうである。リトアニアはウクライナの勝利を可能な限り加速させるため、最大限の努力を行っているし、今後も行っていく」

(了)